

会津大学産学 イノベーションセンター

University - Business Innovation Center

CONTENTS



センター長あいさつ 新任教員あいさつ —P.2

会津大学発ベンチャー企業紹介
株式会社ジークル —P.3

特集
■現代G Pの取り組みについて —P.4、P.5
■アジア人財の取り組みについて —P.6、P.7

UBIC-INFORMATION
講習会のご案内・ご利用案内 —P.8



会津大学産学イノベーションセンター
〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀字上居合90
TEL : 0242-37-2776 FAX : 0242-37-2778
E-Mail : ubic-adm@ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp

会津大学産学イノベーションセンターのインターネットホームページアドレス
<http://www.ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp>

平成20年度
M-Project(本学課外プロジェクト)制作作品

センター長あいさつ・新任教員あいさつ



会津大学産学イノベーションセンター長
程 子学

現在、アメリカ発の世界不況が広がっています。その原因の一つとして、アメリカの「スタンダード」に従ったグローバル化の進行が挙げられるのではないかと思っています。グローバル化は、経済・貿易の活発化や技術発展を促進しましたが、世界経済の一極化や単一化にも繋がります。保護貿易主義の復活ではなく、国や地域の多様な文化を発展させ、地域の特徴を活かした活性化（ローカル化）をベースにした真のグローバル化を進めなければなりません。特徴のないままグローバル社会の中で埋没しては、激しく変動している状況に対応できません。

当センターは、産業界や地域と緊密に連携し、人材育成やイノベーション活動を行い、地域活性化を促進し、学内外のハブ、世界に通じるハブとして機能したいと思っています。

現在実施している「会津IT日新館」は、文部科学省の支援を受け、会津藩校日新館の精神を受け継ぎ、ベンチャー起業、地域理解を体験する取組みとして推進しています。学部生は毎週、産業界のトップランナー、ベンチャー企業の経営者・技術者による講義を受講し刺激を受けているとともに、学生が主体となった体験工房で、様々な社会のニーズに対応しながら調査・実験・開発を行い、成果をビジネスにするためのプランを考えています。

また、経済産業省および文部科学省の支援を受けたアジア人財資金構想「国際IT日新館」では、中国、韓国、ベトナムから招いた優秀な大学院生が、国費留学生として、安全・安心な組み込みシステムの設計・開発技術を学びながら、ビジネス日本語と日本ビジネスを勉強しています。これらの学生はポテンシャルが非常に高く、将来アジア各国へのブリッジ人材としての活躍を期待しています。

さらに、最近、中国をはじめアジアの諸国から、会津大学や大学発ベンチャーと連携したいとの打診があり、ベンチャー企業からも中国やアジアに進出するための調査をしてほしいという要望もありました。今後これらのニーズにも対応していきたいと思っています。

今後とも当センターへのご支援、ご協力をお願いします。



会津大学産学イノベーションセンター
助教 渡辺 孝信

2009年1月1日付けで産学イノベーションセンターの助教に着任しました渡辺孝信と申します。2002年に会津大学コンピュータ理工学部を卒業後、組み込みソフトウェア会社のR&Dで研究開発に従事しました。その後、京都大学のMBAに進学し、経営学を学び、現在に至ります。

着任から約1ヶ月間、会津IT日新館の補助業務に携わりました。実際に業務を通じて、会津IT日新館は学生にとって非常に意義のあるものだと感じています。なぜなら、これから経済展開においては、ITの技術力を持つだけでなく社会動向を洞察し、それを技術と結びつけるイノベーションを創出できる人材が求められており、会津IT日新館はそのような人材の創出に寄与していると感じているからです。学生からの評判も上々で、本年度のアンケート結果からも「会津IT日新館に参加して良かった」という学生が97%、「物の見方が変わった」という学生が60%などと手ごたえを感じています。また、会津IT日新館事務局のコーディネータたちも情熱に溢れています。

また、会津IT日新館事務局のコーディネータたちも情熱に溢れており、サポート体制も万全です。もちろん、完璧というわけではなく、自立化に向けての体制や学生との関わり方などの面で課題を抱え、日々このような課題の解決に取り組んでいます。

最後に、今後の抱負を簡単に述べたいと思います。短期的には、会津IT日新館は文部科学省の「現在教育ニーズ取り組み支援プログラム」の最終年度となり、自立化に向けた体制を整えていきたいと考えております。長期的には、大学のシーズと社会のニーズとのマッチングをさらに円滑にし、会津大学から生み出された成果を社会に還元できたらと考えております。まだまだ、自分自身至らない点がありますが、UBICと共に成長できたらと願っております。今後とも宜しくお願ひいたします。

会津大学発ベンチャー企業紹介

会社名：株式会社GClue

住 所：福島県会津若松市一箕町鶴賀上居合134-5

サイトウビル1F

代表者：佐々木 陽

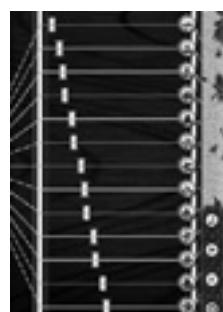
会社Web：<http://www.gclue.com>

設 立：2001年8月31日



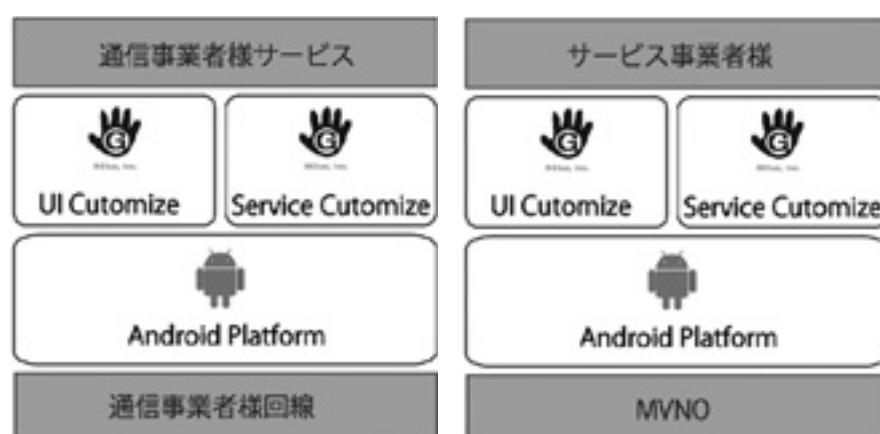
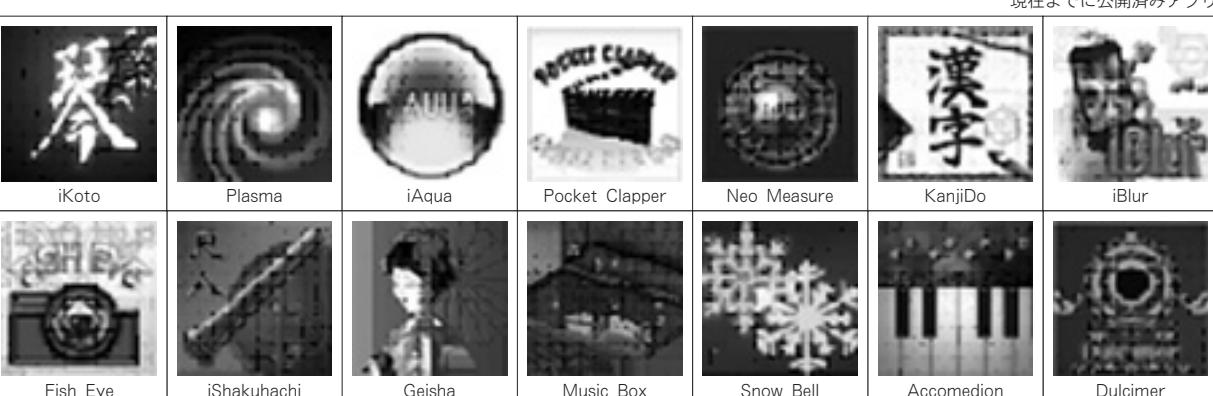
GClue, Inc.

株式会社GClueは、2001年より一貫してモバイルアプリケーションに特化した開発を行ってきている開発会社です。現在までに、iアプリ、S!アプリ、BREW、Flash Lite、Android、iPhoneアプリなどを企画・開発してきています。



会社のオフィスは会津大学のすぐ前に位置しています。会津大学の卒業生などが中心になって、会津若松を拠点にモバイルアプリケーションの開発をおこなっています。現在の主ビジネスは、iPhoneアプリの開発と、Androidをベースとした携帯電話開発です。

iPhoneアプリは、現在までに約20本ほどアプリケーションを開発し、世界80カ国に向けて配信しています。



また、Androidに関しては、通信事業者やMVNO事業者向けにAndroidカスタマイズサービスをおこなっています。Androidをベースに、ユーザインターフェースや、サービスのカスタマイズを施し独自の携帯電話に改良する開発をおこなっています。

ベンチャ一体験工房 「会津IT日新館」



■ベンチャ一体験工房「会津IT日新館」の取組み概要

会津IT日新館は、IT教育を特徴とする会津大学が地域のベンチャー企業や自治体と連携し、地域ニーズに対応したテーマを持つベンチャ一体験工房群を構成することにより、イノベーションに挑戦する精神と技術力を持つ創業意識の高い若手人材を育成することを目的としています。

「会津IT日新館」という名称は、江戸時代の藩校のなかでも最も教育レベルの高い藩校の一つとして知られていた会津藩校日新館からインスピライアされたもので、「会津の興隆は人材の養成にあり」という精神を現代に活かそうという考え方から付けられたものです。「会津IT日新館」では、その精神を受け継ぎ、さらに発展させていくことを目指しています。

■ベンチャ一体験工房「会津IT日新館」の2本の柱

「会津IT日新館」は「基本コース」（講義型）と「ベンチャ一体験工房」（演習型）の2つの授業体系から構成されています。



本取組みでは、その実現のために起業家精神を養うことができる授業体系を取り入れています。その2つの柱が、座学型の「基本コース」と演習型の「ベンチャ一体験工房」です。座学型の「基本コース」では、教員と社会の第一線で活躍している外部講師による講義を行います。また、演習型の「ベンチャ一体験工房」では、会津大学が地域のベンチャー企業や自治体等と連携し、企業ニーズや地域ニーズに対応したユニークなテーマに取り組んでいます。

・ベンチャ一体験工房「会津IT日新館」の取組みの特長

- ① ベンチャー創業者が教える「起業ノウハウ」、企業の技術者が教える「ものづくり技術・精神」、企業の技術者や大学の教員が教える「IT応用技術」、自治体や地域の有識者が教える会津の歴史・文化、風土に関する「地域学」等を開講しています。
- ② 学生は自由履修が可能で、自主的にチームの構成と課題の選択をして学生主導型の研究開発を行っています。
- ③ ベンチャーの見学やインターンシップ、起業のプラン作成・発表活動等を通じ、起業家精神の育成を目指します。
- ④ 各工房では大学教員と企業人が共同指導を、大学院生が工房コーチを担当しています。

■ベンチャ一体験工房とは？

ベンチャ一体験工房は、大学の教員のみならず、第一線で活躍している企業の技術者や経営者から直接指導を受けることにより、企業やベンチャー、地域ニーズに応じて設定されたテーマと課題の解決を目指す演習型の講義です。

ここでは、工房での活動を通じ、ものづくりの技術・精神についての指導を受け、ものづくりの経験と同時に、ものづくりの喜びを実体験することができます。

・ベンチャ一体験工房の特長

- ① 各工房は4~8名の学生から構成され、1名以上の大学の担当教員に加え、ベンチャー企業の技術者と経営者または自治体やNPO等の関係者から1名以上、計2名以上からなる指導者チームによって指導されています。
- ② 各工房に一つの明確なテーマ、およびテーマに関する課題が複数設けられています。
- ③ 各工房では、学生は、自主的にチームを構成し、テーマに関連して、テクノロジベンチャーへの発展を意識しながら、新製品、新サービスにつながる課題を、地域のニーズを把握の上、自分の意思で設定・選択し、研究・開発やベンチャー創業体験活動をします。

・ベンチャ一体験工房一覧（平成20年度）

工房	工房1	工房2	工房3	工房4	工房5	工房6	工房7	工房8
テーマ	組込み製品や制御システムにおける機能安全	携帯型健康支援システム	災害現場初期勘定支援用センサネットワーク	IT技術を用いた地域社会活性化モデル	カム運動曲線創成システム	メッセージジングルネットワーク	機械学習による悪性WEBコードの分類	会津活性化プロジェクト
教員	程子学教授	陳文西上級准教授	宮崎敏明教授	甘泉瑞應准教授	Jung-pil Shin上級准教授	林唯史教授	Incheon Park准教授	大津山公平准教授
時間	本曜 18:30-20:00	木曜 16:30-18:00	水曜 18:10-19:40	水曜 14:50-16:20	木曜 16:30-18:00	木曜 16:30-18:00	木曜 16:30-18:00	木曜 18:10-19:40
協力企業	株式会社 メカテック	メディカルトラスト 株式会社	日本総合 システム 株式会社	西会津町	株式会社 アトム	株式会社 Eyes.JAPAN	株式会社 NSTラボ	株式会社 デザインウム



尚、活動の様子は、下記のウェブサイトにて公開しております。
URL : <http://www.ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp/pub/gp.file/index.html>

アジア人財資金構想 高度専門留学生育成事業

会津発グローバルITリーダー育成プログラム 「国際IT日新館」



■プログラムの内容

会津発グローバルITリーダー育成プログラム「国際IT日新館」では、会津大学が地元会津のベンチャー企業や国内有力企業と連携しながらアジアからの留学生に対して研修プログラムを開発・実施しています。このプログラムでは、「会津の教え、企業の教え」を会得した地域社会へ貢献し国際的にも通用する会津発のグローバルITリーダーとして活躍できる人材へと育成することを目標としています。以下に、本事業の柱となる5つの研修プログラムをご紹介します。

1 産学連携専門教育プログラム

学内の講師によるIT基礎知識と機能安全の国際規格論に加え、企業の第一線で活躍する外部講師陣による実践講義を展開しています。このプログラムは、安心・安全な組込みシステムの開発技術に関する日本企業の実践経験及び国内外の最新動向を反映した、大学院の正規科目として実施されています。具体的には、既存科目の授業とのバランスを考慮した以下の3つの科目です。

- 「安心・安全な組込みシステムの基礎と実践」
- 「機能安全システムの基礎と実践」
- 「プロジェクトマネジメントの基礎と実践」



産学連携専門プログラム担当の程子学教授(UBICセンター長)

2 ビジネス日本語・日本ビジネス教育

ビジネス日本語・日本ビジネス教育プログラムでは、基礎日本語クラスに加え、ビジネス日本語・日本ビジネス教育のクラスを実施しています。基礎日本語クラスでは、「会津の教え、企業の教え」などをテーマに日本語基礎力のレベルアップを図っています。ビジネス日本語・日本ビジネス教育のクラスでは、専門講師陣（外部より招聘）による日本における就職に必要なビジネス日本語・日本ビジネス習慣のクラスを実施しています。また、定期的にテーマを設定した発表会を開催することで、留学生の総合的なプレゼンテーション能力の向上を図っています。

3 インターンシップ

地元ベンチャー企業、国内有力企業、国際的な展開をしている大手日本企業などと連携し、留学生が多様な企業体験を得られるインターンシップを実施します。基本的には、プログラム参加期間（修士課程在学期間）の2年間で、①コンソーシアムの地域ベンチャー企業を中心とした短期インターンシップと、②就職を見据え、個々の専門を活かした比較的長期間のインターンシップに参加します。

4 就職支援

コンソーシアム企業などの協力を得て、上記産学連携専門プログラムともリンクした企業見学会（福島県内、仙台方面、首都圏など）や、地元IT企業との交流会・意見交換会を開催しています。また、就職活動に必要な知識・情報の提供だけでなく、個別就職相談などによる支援も行なっています。

5 留学推進・留学生支援

プログラム参加留学生の母国大学や会津大学と協定関係のあるアジア圏の大学などを訪問し、関係教員や在学生に対するアジア人財留学説明会の実施や、留学推進コーディネータ（学外）や本学のアジア系教員等の協力を得ることにより、本プロジェクトに参加する優秀な留学生の確保を目指します。また、日本人学生によるチューター制度を設け、生活の相談に応ずると同時に日本語に接する機会を増やし、留学生が日本に溶け込んだ生活を行なえるよう支援をしています。



地元IT企業との交流会・意見交換



■実施体制（平成20年度）

1 学内

○プロジェクトリーダー

岩瀬次郎（会津大学理事）

○サブリーダー

程 子学（会津大学教授、UBICセンター長）、甘泉瑞應（会津大学UBIC准教授）

○特任メンバー

桑原英一（特任講師／専門プログラム担当）、荊 雷（特任講師／専門プログラム担当）

佐川成美（特任講師／日本語教育担当）

藤田 篤（特任コーディネータ）

丸山ちか子（経理事務担当）

2 プログラム実施企業（7社）

○テンプスタッフ・カマイ株式会社 ○株式会社GClue

○株式会社シンク ○株式会社ナディス ○株式会社明天

○有限会社クレメンティア ○株式会社アルク

3 プロジェクト参加企業（14社）

○オン・セミコンダクター・テクノロジー株式会社 ○Spansion Japan株式会社 ○アルパイン株式会社 ○日本IBM株式会社 ○アルプス技研株式会社 ○株式会社ヴィッツ ○株式会社MAソリューションズ ○株式会社アドバンスドデータコントロールズ ○株式会社Next Ninja ○株式会社アトム ○株式会社メカテック ○株式会社ナディス ○株式会社GClue ○株式会社シンク

（※後ろ3社については上記「プログラム実施企業」と重複）



【アジア人財ホームページ】
<http://www.ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp/asia/>

会津大学産学イノベーションセンター UBIC INFORMATION

産学イノベーションセンター講習会

産学イノベーションセンターでは、産業の振興、学術文化の向上など、会津大学がめざす地域活性化への貢献策の一環として、マルチメディア・コンテンツの制作・編集等のための講習会を開催しています。

※平成21年度開催分の詳細につきましては、決まり次第、別途お知らせします。

3DCG作成セミナー

◆日 時：7月予定（7日間コース）

各日とも18:00～20:30

◆内 容：3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）
作成ツール「Shade」を使用して、簡易なCG映像制作技術を習得します。「Shade」の基本的な操作法を学び、実際にコンテンツを作成します。

インターネット基礎セミナー

◆日 時：9月予定（5日間コース）

各日とも18:00～20:30

◆内 容：インターネット構築のためのLAN等の基礎技術を習得します。ネットワーク技術や各種サーバーの役割を学びます。

プログラミング入門セミナー

◆日 時：11月予定（3日間コース）

各日とも10:00～16:00

◆場 所：会津大学産学イノベーションセンター
セミナールーム

◆内 容：Javaを通して、プログラミングの基礎を習得します。Javaの特徴及びJavaプログラミングの基礎を理解し、Java2SDKのセットアップからJavaプログラムを実行するまでの一連の流れを学び、実際に簡易なJavaプログラムを作成します。

ワンデー・トライアル（1日体験）

◆日 時：未定

◆場 所：会津大学産学イノベーションセンター
セミナールーム

◆内 容：日頃から、産学イノベーションセンターのシステムを使ってみたいとお考えの方、使ってみたいが使い方がわからないという方を対象に、センターのシステムの1日体験ができます。

◆受講料：無料

マーリングリスト登録のおすすめ

会津大学産学イノベーションセンター各種講習会への参加・応募を希望される方は、住所・氏名・電話番号・e-mailアドレスを明記のうえ、FAX、e-mail等でご連絡ください。マーリングリストに登録のうえ、詳細情報が決まり次第ご案内いたします。なお、マーリングリストへはUBICホームページからも登録できます。

センターご利用案内

- ・産学イノベーションセンターは、産学連携のコーディネートや共同研究や起業化のための各種情報を収集・発信し、地域・企業へ開かれた産学連携の総合窓口として機能しております。
- ・産学連携フォーラムなどの実施により、企業と教員の交流の機会を提供します。
- ・IT関連の各種講習会を開催し、地域の産業界にIT関連技術の普及啓発を図り、新たなビジネス展開と地域産業の振興を支援します。
- ・最先端のシステムを低料金でご利用いただけます。スクリーンを使ったプレゼンテーションやセミナーの開催、CGやサウンドの制作・加工・編集、人体の動きの3DCG化などにご活用ください。

開館時間

午前8時30分～午後5時
(夜間利用承ります。要予約)

休館日

土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始

無料コーナー

一般見学、インターネット体験

施設使用料

研究開発室	1室	1年420,000円
研究開発室(分割スペース)		
3Dシアター	1回	21,000円
セミナールーム	1回	21,000円
運動解析ルーム	1回	15,750円
サウンドクリエーションルーム	1回	1,050円
オーサリングルーム		
1システム	1時間	270円

※使用単位中「1回」とあるのは、次に掲げる時間です。
(1) 8:30～12:30 (2) 13:00～17:00 (3) 17:30～20:30

申込み方法

事前の申込みが必要ですので、使用する施設・システムの空き状況について、電話、e-mail等にてお問合せください。申請書の様式は下記URL又は産学イノベーションセンターのホームページからダウンロードできます。

<http://www.ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp/system/file/external.html>

会津大学シーズ集

会津大学産学イノベーションセンターでは、本学と産業界等との連携をより一層推進していくため、本学研究者の研究内容を広く一般に紹介するシーズ集を作成しています。シーズ集は下記URL又は産学イノベーションセンターホームページへアクセスしてご覧ください。

<http://www.ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp/seeds.html>



2009年（平成21年）3月31日発行

〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀字上居合90

TEL : 0242-37-2776 FAX : 0242-37-2778 E-Mail : ubic-adm@ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp